

会議結果報告書

令和4年8月31日

会議の名称	令和4年度第2回志木市健康づくり市民推進協議会
開催日時	令和4年8月4日（木）午後1時30分～3時00分
開催場所	西原ふれあいセンター（健康増進センター 2階）
出席委員	山下和彦会長、中村勝義副会長、宮本日出委員、田中節子委員、宮原賢子委員、宮下博委員、荒野壽子委員、隅田由香利委員、武村久仁子委員、西和江委員、松永みどり委員、飯田順一委員 (計 12人)
欠席委員	鎌田昌和委員、星野賢委員、細沼明男委員、妙智豊子委員、細川年幸委員、山本眞由美委員、大熊啓太委員、増田康太委員、藤恵子委員 (計 9人)
説明員氏名	安形喜代美（健康政策課）、熱田美乃里（健康増進センター） (計 2人)
議題	(1) いろは健康21プラン（第5期）、食育推進計画（第3期）、歯と口腔の健康プラン（第3期）策定に係る市民健康意識調査について (2) 市民のこころと命を守るほっとプラン〈自殺対策計画〉（第2期）策定に係る市民アンケート調査について (3) その他
結果	別紙、審議内容の記録のとおり (傍聴者 0人)
事務局職員	大熊克之（子ども・健康部長）、清水裕子（健康政策課参事兼課長） 安形喜代美（健康政策課主幹）、伴恭臣（健康政策課主査） 小林麻有（健康政策課主査）、大野広幸（健康増進センター所長）、杉田明子（健康増進センター副所長）、山田美穂（健康増進センター主査）、熱田美乃里（健康増進センター主事）

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 題

- (1) いろは健康21プラン（第5期）、食育推進計画（第3期）、歯と口腔の健康プラン（第3期）策定に係る市民健康意識調査について事務局より説明を行った。

委員長：以前の会議では、「健康観」「幸福感」「第三の居場所」がキーワードとなっていて、健康づくりに係る知識や活動の状況を調べることとなっていた。健康観については、自覚的健康度と客観的健康度とあるが、自覚的健康度を把握しようと考えている。事務局の説明では、新型コロナウイルス感染症の影響として市民が運動不足となっているのではないかとの仮説を立てていたが、先行研究を踏まえると運動不足というよりは外出頻度の減少の方が気になるところである。その他、中高生向け調査の問9について、お酒と喫煙の選択肢があるのは違和感を覚える。また、地域のサークルに係る選択肢も該当しないのではないか。それから、第三の居場所の有無や幸福度についても一般市民向け調査と同様に加えてみてはどうか。

さらに、からだや性について尋ねている設問において、エイズと性感染症の区分けよりは、昨今注目されている梅毒やヒトパピローマウイルスなどを項目として設けると良いのではないか。小学生の保護者向け調査と乳幼児の保護者向け調査にも健康観、幸福感、第三の居場所の設問を加えて良いと考える。

委員：小学生の保護者向け調査について、高学年の児童の場合は保護者ではなく自分自身が回答する設問があっても良いのではないか。

事務局：他の事例では小学生自身が回答する調査もある。ただし、子どもが回答するとなると他にも調整・手続き等が必要となるため、庁内で検討させていただきたい。

委員：荒野委員のご質問に関連して、小学生の保護者向け調査について、対象の学年は限られているのか。もしも限られているようであれば、高学年の児童の意識・考えを調査しても良いのではないか。それと、一般市

民向け調査の問26に関連して災害に対してどのような不安を抱えているのかも尋ねてみてはどうか。また、小学生の保護者と中高生についても同様の設問を加えてみてはどうか。

事務局：小学生の保護者向け調査は、前回と同様に対象を小学1年生から6年生まで1クラスずつとしている。また、災害関連の設問は、内容をもう少し充実できると考えるので、改めて検討させていただきた。

会長：乳幼児の保護者向け調査について、病中・病後の保育やその環境整備に係る設問を追加すると良いのではないかと。また、保育に対する家族の体制も昨今では関心が高まっているため、保育に関する両親の協力体制も尋ねてみてはどうか。さらに、医療費の支援に対する理解や認知の状況を把握してはどうか。

事務局：確かに重要な内容である。来年度、母子保健計画で意識調査を実施する予定のため、その調査領域と重複しないように配慮しながら追加できる設問があるか検討させていただきたい。

委員：中高生向け調査では、ダイエットに対する意識を尋ねてみてはどうか。

事務局：身長と体重を把握して「やせ」の状況を確認できるのではないかと考えていたが、ダイエットの意識については尋ねていないため、加えるかどうか検討させていただきたい。

委員：全ての調査において、居住地の選択肢に「市外」が入っているのは適切なのか。また、今回配付された調査票に載っている★マークや指標の文言は削除されるのか。

事務局：高校生の中には市外から通っている生徒もいるため選択肢を設けているが、その他の調査は適さないため削除する。なお、★マークと指標の文言は、調査項目の検討用に便宜上つけているものなので、最終的には削除する。

委員：先日、ヤングケアラーに関連する調査票を見た時に、子どもの健康にも関連していてどの計画で触れても良いような内容だった。ヤングケアラーについては触れないのか。

事務局：子ども・子育ての計画に関する調査と重複するため、含めないようにしている。

会長：ヤングケアラーを加えるのであれば、ダブルケアについても検討していただきたい。

委員：一般市民向け調査の問51について、選択肢3に定期的に歯科検診を受けているという項目がある。中高生向け調査は定期的な検診があるので

このままで良いと思うが、一般市民向け調査では、骨太方針2022の中に国民皆歯科健診が明記され、定期的な受診の重要性が示されたことから、定期的という表現のところに※を付けて「過去1年に」と注釈を加えるとより具体的に把握できるのではないか。

会 長：現行計画ではポリファーマシーのことも大きく取り上げた。市としてかかりつけ薬局を持つように強く推進するのであれば、「かかりつけ薬局がある」からさらに発展させた「かかりつけ薬局に相談した」という項目に変えてもよいかもしれない。

委 員：薬局には日々多くの高齢者の方が訪れる。薬を受け取ること以外に、こころの相談の場と化しているところがあり、一人ひとり相手をしていると多くの人に対応できないのが悩みである。

委 員：第三の居場所をキーワードとしているわりには、設問が薄いのではないか。地域の団体の認知度や参加頻度を尋ねてみてはどうか。

事務局：災害関連の設問と同様、内容をもう少し充実できると考えるので、改めて検討させていただきたい。

(2) 市民のこころと命を守るほっとプラン（自殺対策計画）（第2期）策定に係る市民アンケート調査について
事務局より説明を行った。

会 長：本調査では、「自己肯定感」「自己有用感」がキーワードとなっており、一般市民向け調査の問11が該当する。自己肯定感や自己有用感を確認し、自殺リスクを把握できるかどうか、さらにはその他の設問を尋ねることで対策を講じることができるかどうか。居場所がない人は自己有用感が低いかもしれない。健康観、幸福感は本調査にもいろはと同様、加えた方が良いのではないか。認知症の場合、病状の進行による将来への不安が自殺やうつ病につながってしまうケースもありそうである。

委 員：メディアについて、今の子どもはSNSの利用がはじめ、こころの悩みにつながっている。配付された調査票ではSNSの利用状況や利用時間を尋ねているが、利用目的も把握するとより細かい状況がわかるのではないか。

会 長：SNSの利用については、親が介入している子どもとそうでない子どもがいるだろう。

委 員：以前、ある中学生の子どもが知らない人にSNSを通じて連絡を取り合ってしまう、会う直前に親が止めたという出来事を聞いた。とても怖いことで、親はかなり子どもを叱ったようである。

会 長：SNS の利用については、教育と対策が必要かもしれない。そのような内容に関連した設問を加えてみてはどうか。

委 員：一般市民向け調査の問 10 について、楽しいと感じていることや夢中になっていることを何かしていないといけないような選択肢になっている。一人で公園でぼーっとしていることも幸せの一つの在り方であって、一人でほっとできる場所があるというのもキーワードとしてあるのではないか。

事務局：承知した。問 10 かあるいは別の設問として加えるか検討させていただきたい。

委 員：一般市民向け調査には高齢者も対象に含まれているのか。もしも対象となっているのであれば、そのような選択肢も必要ではないか。

事務局：地域活動の場を居場所として捉えており、高齢者の方が回答できるように配慮しているつもりである。

会 長：以前の調査結果では、自殺を考えたことのある中高生が想像以上に多く、その子どもに情報を届けることが課題であった。具体的な対策方法を抽出できるという視点で検討していただきたい。

委 員：最近 SNS のいじめが多く、誰かわからない状態でのいじめが増えているイメージがある。設問・選択肢の追加を検討していただきたい。

会 長：SNS での疎外感などを把握してもよい。また、高齢者には健康観や配偶者の死による孤独感なども気になるところだが、あまり設問数が多くなっても回答者の負担が増えるのでバランスを踏まえて決定していただきたい。パワハラやマタハラについても昨今、関心が高くなっている。

委 員：中高生向け調査の p9 には自殺の現状についての説明書きがコラム式に載っている。このままだとかなり象徴的になるので、設問文の中に短文で含めてしまった方が良いのではないか。検討していただきたい。

4 その他

事務局：特になし。

5 閉会

事務局：次回の会議は 9 月 29 日（木）13:30～を予定している。